

1. しかし、わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、その時が来れば、わたしがそれについて話したことを、あなたがたが思い出すためです。わたしが初めからこれらのことをあなたがたに話さなかったのは、わたしがあなたがたといっしょにいたからです。しかし今わたしは、わたしを遣わした方のもとに行こうとしています。しかし、あなたがたのうちには、ひとりとして、どこに行くのですかと尋ねる者がありません。かえって、わたしがこれらのことをあなたがたに話したために、あなたがたの心は悲しみでいっぱいになっています。(16:4-6)
 - a. 「その時」とは、クリスチャンを迫害したり殺したりする者がそうすることで自分は神に奉仕しているのだと思う時のことを言っている。この時が完成するのはまだ先のことだが、わたしたちもこの恐ろしい時が現実となりつつあるのを目にしている。
 - b. イエスが去られる時と迫害が来る啓示は神のタイミングで知らされるためほとんどの弟子たちには隠されていた。イエスはこれらのことを初めからおっしゃったのではなかった。神がその民に啓示をされる時には往々にしてこのような方法をとられる。
 - c. イエスがこのようにされた主な理由は、ご自分の弟子たちの心を悲しみでいっぱいにしたためであった。しかしいずれは時が来て弟子たちに話さなければならぬ。私たちが生きる今の時代でも、時が来ると神が弟子たちに明かさなければならぬことがまだ残っているはずである。
2. しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたにとって益なのです。それは、もしわたしが去って行かなければ、助け主があなたがたのところに来ないからです。しかし、もし行けば、わたしは助け主をあなたがたのところへ遣わします。その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世にその誤りを認めさせます。(16:7-8)
 - a. 神は真実なお方なので、悲しみさえもより大きな喜びに変えてくださる。神は決して私たちに悲しみだけを残して立ち去られず、引き換えにさらに良いものをくださる。それが神のご性質だからである。痛みや困難を通る時、神は必ずそれと同等、もしくはさらに大きな恵みをくださる。
 - b. イエスが去られるということは、「助け主」である聖霊が来られることである。イエスが、聖霊が来られるためにはご自身が去ることが益なのだとおっしゃっていることは驚くべきである。私たちにしても、もし目の前にイエスがいらっしゃって、「私が去り聖霊が来たほうが良い」と言われたらそう信じられるだろうか？
 - c. イエスは、私たちの人生の中での聖霊の優位性とその役割を説明し始められている。イエスは罪と義とさばきについてこの世に誤りを認めさせる。1) 9節：「罪についてというのは、彼らがわたしを信じないからです。」2) 10節：「また、義についてとは、わたしが父のもとに行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなるからです。」3) 11節：「さばきについてとは、この世を支配する者がさばかれたからです。」
3. わたしには、あなたがたに話すことがまだたくさんありますが、今あなたがたはそれに耐える力がありません。しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導き入れます。御霊は自分から語るのではなく、聞くまます話し、また、やがて起ころうとしていることをあなたがたに示すからです。(16:12-13)
 - a. 聖霊は、世に誤りを認めさせるだけでなく、私たちを導き、私たちに語り、父なる神の栄光を現す。
 - b. イエスには弟子たちに語る事がまだたくさんあるだろうし、語らなければならなかったことはすべて聖書に記されているかもしれないが、私たちはまだまだこれらのことを理解する必要があり、これらの啓示が明らかにされるタイミングは神の御手にある。今日の箇所で見ると、神は時が来るまである情報を隠しておられることがある。
 - c. 「この世の支配者」の時が近づくと、より一層聖霊の導きと声を識別する必要がある。私たちが聖霊にこれらをゆだねることによって、私たちの人生の中で、また人生を通して神に栄光を現すことができる。